

# 塾全協東通信

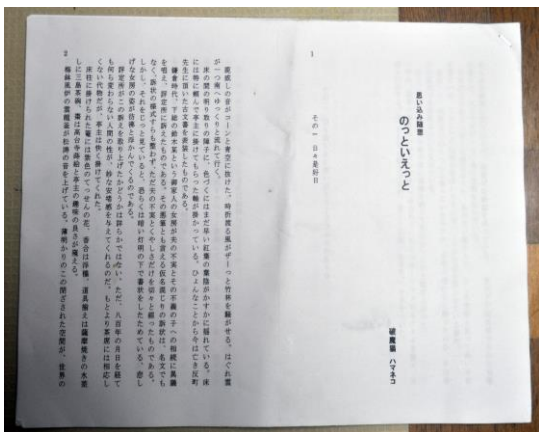


題字：伶齋（白川亮 進ゼミ柏）

## 《訃報》

去る7月31日、塾全協 元 東京南部支部長、広報局長、進学対策局長、研修局長、東日本事務局長の濱実先生が大動脈瘤破裂のため亡くなられました。享年64歳の若さでした。

濱先生は主として任意団体時代の塾全協の時代に活躍されました。東京南部支部長を長く勤め、広報局長としては塾全協のホームページ作成を提案し、そのときの試作版のURLがjzk、すなわち現在のNPO塾全協のホームページのURLの基となりました。広報局長としてはまず「塾全協かわら版」を発行しました。NPO時代になっても一時引き継がれていましたが、現在は「事務局だより」と合併して「東通信」として引き継がれています。また広報局として「塾全協 茶会」という型破りのイベントを催しました。茶会は本来情報交換のために行われたので、私学と塾の情報交換のためにやろうという活気的な企画で多くの参加者を集めました。この会は「セレモニー、懇親会無し」と最初からうたったものでその意味でも活気的でした。また進学対策局長のときは「スタンプラリー」を初めて実施するなど独創的な発案で大いに塾全協の活動に貢献して下さいました。塾全協の活動に大きく貢献され、他団体を含め、塾業界で非常に人望のある方でした。



↑ 葬儀参列者に配られた濱先生の‘遺稿’  
「のっといえっと」



↑ 2000年11月 イナダを釣りに千葉県内の釣り船に乗った時の写真。塾全協メンバーと某私立学校の先生。シャッターを押したのは稲葉先生。殺生はしたくない（自分の手は汚したくない）と最初は釣りを拒んだけど結局一緒にやることになった濱先生。最初で最後のレアな写真です。

## 第5回英語合宿 in British hills

第5回になる英語合宿ですが、今回は初めて参加する生徒の皆さんばかりで、8月11日～12日の一泊二日で、第5回英語合宿をブリティッシュヒルズで行いました。

その時期関東地方では、猛烈な暑さが続いていたため、福島の高地にあるブリティッシュヒルズは、とても快適でした。参加者は小学5年から高校2年生の計12名で、各2人部屋（3人もあり）に宿泊し、研修に、イベントに、レクリエーションに積極的に英語に取り組んでくれました。



19.00-19.30 English Speaking Society for JHS & HS in the Barracks lounge にて現地では生徒さんたちが活発にされていたとスタッフの方からの報告が届いております。特にクッキングを担当した Hayden 先生からは、みんなが懸命にフリータイムのワークシートに取り組んでいる様子を見て、大変感心した、とコメントが来ています。レッスンも熱心に取り組んでおられ、受け答えもよくできていたということです。



9.00-10.30 **Cooking Scones** (Henry II Kitchen)

スコーンのクッキングでは、慣れない手つきで男子中学生が、頑張っていました!!  
毎回、人気のある授業ですが、生徒の皆さんには、とても新鮮のようです。



### Free time Activities

プールに入って楽しんだり、ショッピングをしたりして英語の環境でもノビノビの生徒たちを見ると連れてきて良かったとつくづく思いました。



### あとがき

現地で、多くの EEC ジュニアの皆さんと会いました。みなさん元気に英語にトライしていました。まさに英語時代ですね。ブリティッシュヒルズのスタッフの方々にお聞きしたところ毎回多くの小学生が来てくれるそうです。子供たちが早くから英語を身に着けようとしているのが伝わってきます。

貴塾では、小学生の英語はどうでしょうか？最近、英語塾、英会話教室でも数学や国語を教えている様です。英語が売りの英会話教室でも国数を教えるとなると、塾は何を売りにするのでしょうか？

英会話教室と塾を併設しているある塾さんでは、小6が、120名ほどいてそのまま中学生として上がってくるそうです。英語を武器にすることがこれから重要になるのは必至です。

塾全協では、これからもブリティッシュヒルズ以外で色々な英語関係の企画を行っていきます。

是非ともご参加くださるようお願いいたします。

英語合宿担当 望月 玄一郎

## 濱先生の思い出

NPO 塾全協全国事務局長・東日本ブロック広報局長 中村基和

私が初めて濱先生の存在を知ったのは、確か 1993 年あたりの当時は 1 月に発行していた塾全協新聞への彼の投稿でした。「南部支部、今年の抱負」というテーマでしたが、当時東京南部支部長をしていた濱先生の文は、飲み屋の情景をこと細かに描写し(それが上手い!)、与えられたテーマとは全く関係ないものでした。そして最後に「分かった。今年の南部支部の抱負はない。」これには笑いました。格調高い文を書き続けて最後にアレアレッ!となる。濱節とでも言いましょうか。最後のずっこけは別としてそれまでの飲み屋の情景はまるで酒好きの李白の文を読んでいるかのような錯覚を感じました。褒めすぎかも知れませんが、文を書かせたらコイツには叶わないと痛感しました。

濱先生と最初に出会ったのはその年の新宿での進学相談会、私が塾全協に入って 2 年目のことでした。会場で名刺交換をして何度か会話をするうち、お互いの塾が比較的近い所にあるとわかり(濱先生は渋谷、私は中野区南部)、そのうち呑もうということになりました。濱先生の自宅兼塾が渋谷駅に近い円山町にあるので、まずは渋谷で呑むことにしました。渋谷で待ち合わせというと大抵はハチ公前になるのですが、我々が意見一致で決めた場所は OS 劇場(ストリップ小屋)の前!まずは濱先生が行きつけのジャズバーに行きました。お互いのことを全く知らないのでまずは

私: どの大学を出られたのですか?

濱先生: 慶應義塾大学です。

私: 私は‘反対の’大学です。

濱先生: それでわかりました。

濱先生のトレードマーク



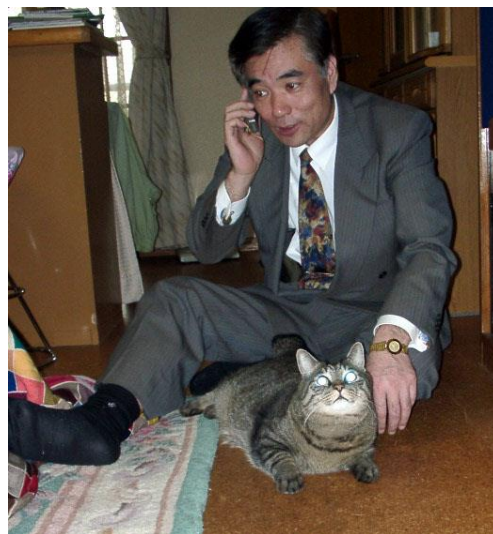
「反対の大学」とは勿論早稲田で、そのときからお互いの出身大学の悪口を言い合うようになりました。と、言っても憎み合っているわけでは勿論なく、動物のじゃれ合いのようなものです。ジャズバーのあと、今度は私の塾の分教室の隣のビルの地下にあったB〇〇というパブに行きました。靴を脱いでじゅうたんの上に座るようになっています。カワイイ女の子たちが働いているのもこの店の特色でした。マスターが音楽好きでフロアの真ん中にグランドピアノやドラムスや壊れたギターアンプが陣取っていました。私がピアノの前に座ってポップスの弾き語りやジャズピアノの真似をしたりすると、濱先生は、「悔しい!早稲田に負けた!」最初の出会ってから早慶戦でした。因みに、塾・私学の経営コンサルタントの某氏も若い頃はこの店の常連だったそうです。濱先生の「遺稿」ともいえる「のっといえっと」にもこの店の話が載っていました。私もその現場にいました。

常任理事として濱先生は最初広報局長になりました。ほぼ毎月「広報かわら版」という会報を出し始めましたが、1 人だけではどうしてもネタ切れになってしまうので、私は「学校説明会レポート」などを書いて協力しました。しかしこの「活躍」のために私は次期の常任理事に推薦されてしまいました。また広報局主催の「塾全協茶会」という画期的なイベントを催しました。日本史専攻で裏千家の資格のある濱先生は、「茶会は情報交換の場だった」と私学、塾の先生方を集めました。セレモニーも懇親会もないという出席しやす

い設定も斬新的でした。また、塾全協のホームページを作ろうと言い出し、試作まで作りました。実際に作ったのは次の広報局長の私ですが、現在のホームページでも使っている URL その他の「jzk」は濱先生の考え出したものです。

広報局長の後、濱先生は進学対策局長、すなわち新宿 NS ビルでの私立中高進学相談会の担当局長に任命されました。この仕事は相当大変だったようでした。事務所も事務員もなく、塾長が一人で受け付け担当をしている個人塾の経営者にとってはこの仕事は過酷なものです。あまりにも気の毒なので私と I 先生で徹夜で手伝うことにしました。濱先生は「この年になって友だちが出来るとは思っていなかったけど、出来た！」と喜んでいました。進学相談会ではスタンプラリーを初めて導入しました。また制服ファッションショウも催しました。これは 1 回だけになってしまいましたが、今度の進学相談会で「学校制服バーチャル試着」として蘇ったと勝手に思っています。

この時期から濱先生とよく呑み歩くようになりました。他の塾全協の先生や他団体の先生方も含めて呑み会をやることも頻繁でした。塾の仕事は夜型なのでどうしても呑み会は同業者同士になりがちです。しかも始発まで。私家で 3 次会をやることもありました。猫好きで自ら破魔猫（ハマネコ）と称している濱先生が深夜私の家に来たとき、我が家の愛猫ニャーゴ（別称ブーニャン）と対面しました。ニャーゴは体重 8 kg を超える大ブタ猫でしたが、可愛らしく気性が穏やかで人なつっこいので濱先生は「最高のペットだ」と大いに気に入り、我が家の旅行中は預かってもらいたいというほどでした。ニャーゴのことを聞いた濱先生の娘さん



は、ニャーゴに会いたいと高校入学式の後、濱先生と一緒に我が家を尋ねてきました。右はそのときの写真です。濱先生は進学対策局長の次は研修局長で、ゆとり教育の前年の 2001 年の研修大会の実行委員長を勤めました。勿論ゆとり教育に関するテーマで、教科ごとに部屋を設け、それぞれに講師を招く形式のものでした。次年度は私が研修局長で、それを受け継ぐ内容になりました。この頃は本当によく一緒に呑み歩きました。まさしく悪友でした。二人とも酒が好き、女が好き。でも好きな女性のタイプが違っていただけでした。

塾全協が NPO になってから最終的には事務局長になりましたが、諸事情から残念なことに塾全協を辞めることとなってしまいました。そして私がその後釜として事務局長を引き継ぐことになりました。今、振り返って見ると私は常に濱先生の後を追っているようでした。

3 年前久しぶりに会ったとき、濱先生は別人のようにやせ細っていました。糖尿病を患ったとのことでした。でも、酒は止めず、次の年の正月に会ったときは和服姿で「今、邦楽をやっているね、若い芸者さんの友達もいるけど、呼びますか？」いやはや花柳界デビューか?! その年の年末、六本木で呑んだとき（濱先生と呑んだのはこれが最後になってしまいました）、白内障の手術をしたと聞きました。実は私もその 4 か月後に白内障の手術をしました。手術を終えたあと真っ先に電話して、「もの凄く良く見えるようになりましたよ!」「それはそれは良かったですね。」この対話を良く覚えています。今年の 7 月 20 日、午後 5 時過ぎ濱先生から電話がありました。

「これから渋谷に来るならおごるから呑もうよ。」

濱先生は長時間働かない主義で、講習は午後5時で終わる人でした。私は、「夏期講習が始まったばかりで、今日も9時過ぎまで授業があって、それから渋谷に行って呑んだら何時になるか分からないし、明日も朝から授業だから...」と断りました。それでお互いもっと都合の良い日に呑もうと言うことになりました。8月3日、NPO 塾全協の菅原先生から濱先生が亡くなったと電話とFAXがありました。最初は全く信じられませんでした。そして結果論とはいえ、あのとき呑もうよという誘いを断ったことを何度も後悔しました。

濱先生は自分でもいつも行っているとおり、ダンディズムを通した人でした。飲み屋のネエちゃんに名前を聞かれるとよく「ダンディです」答えていました。(私は「ダーティーだろうに」と茶々を入れていましたが) 理事会ではネクタイの代わりにスカーフを巻いていました。格好の悪いことを嫌がり、常にスマートに決めようと心がけているようでした。私が彼の飲み代を立て替えた次の日、振り込むから口座番号を教えてくださいと電話してきたこともありました。良い意味で慶應ボーイです。しかも高慢なところがなく、庶民的でさえありました。卓越した文才、個性的な発送、企画力.....鬼才と言っても過言ではないでしょう。

先ほども書きましたが、私は塾全協では結果的に濱先生の後を追ってばかりいたみたいですが、年は同じだけど、私の方が少しだけあとに生まれている。濱先生、申し訳ないけど私はまだ生きたいのでこれ以上後は追えません。でもいつかはあの世でお会いすることでしょう。そのときはまた一緒に酒を浴びましょう！ところで、あの世にも渋谷や高円寺があるのかな？

《合掌》

## NPO 塾全協東日本ブロック 今後の主な予定(2015年度)

- 9月6日(日) 進学相談会東京 新宿NSビル
- 9月23日(祝) 進学相談会千葉 クレストホテル柏
- 9月27日(日) 進学相談会埼玉 川越プリンスホテル

ブリティッシュヒルズ 10月24日・25日 1泊2日

- 11月1日(日) 全国研修大会 in 神戸
- 1月15日(金) 教材教具展 柏商工会議所

編集 NPO塾全協東日本ブロック 事務局長 中山和行  
〒350-0322埼玉県比企郡鳩山町今宿229番地  
TEL 049-296-1111 FAX 049-296-1111 E-mail gyqbt650@ybb.ne.jp  
NPO塾全協東日本ブロックHP <http://www.jzk-east.com>